

平成29年度第1回  
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会  
資料収集部会

平成29年10月18日（水）  
東京都江戸東京博物館 2階会議室

午前10時00分開会

**富岡文化施設担当課長**：それでは、皆様おそろいですので、そろそろ始めさせていただきます。

改めまして、本日は大変お忙しい中、御出席いただきまして、どうもありがとうございます。

ただいまから「平成29年度第1回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会 資料収集部会」を開催いたします。

私は、東京都生活文化局文化振興部文化施設担当課長の富岡でございます。議事に入りますまで司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、東京都生活文化局文化施設改革担当部長の鈴木から御挨拶を申し上げます。

**鈴木文化施設改革担当部長**：おはようございます。東京都生活文化局文化施設改革担当部長の鈴木でございます。

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、どうもありがとうございます。

東京都では、各都立の美術館、博物館におきまして、それぞれの設置目的ののっとりまして、いろいろなすぐれた芸術作品とか貴重な歴史的な資料を将来へ継承していく、また、いろいろな東京の芸術・文化・歴史を国内外に発信していく、そうした目的のためにそれぞれ収集方針をつくりまして、計画的に収蔵作品を購入しているところでございます。

そうした観点から、この収蔵委員会でも全部で320点の作品につきまして江戸東京博物館において所蔵する作品として妥当かどうかを、本日、専門的な観点から御審議を頂戴できればと思っております。

この江戸東京博物館は、常設展だけで年間約100万人のお客様を迎えている施設でございますし、その中で2割ぐらいが海外からのお客様という状況になってございます。今月より半年間の予定で今は休館で、いろいろ改修を始めているところでございますけれども、引き続き、都としましてもこの施設を安心して快適にお客様をお迎えできる施設にしつつ、また収蔵品をさらに増強、拡充しながら、今後、2020年のオリンピック・パラリンピック大会や、またそれ以降を見据えながら取り組んでまいりたいと思っております。

本日、お時間を2時間頂戴しておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

**富岡文化施設担当課長**：続きまして、江戸東京博物館の藤森館長から御挨拶を申し上げます。

館長、よろしくお祈いします。

**藤森館長**：常設展がおおよそ100万人で、特別展が50万人入っております。特別展は巡回で外と一緒にやるのがありますけれども、本館独自のものもちゃんとやっております。特に収蔵品というのはそういうときに大変力を発揮いたします。毎度のことでございますけれども、よろしく御審査をお願いいたします。

**富岡文化施設担当課長**：ありがとうございます。

続きまして、本日御出席いただいております委員の皆様を紹介させていただきます。恐

縮でございますが、私の向かって左側のお席から順に紹介をさせていただきます。

まず、大口委員でございます。

松尾委員でございます。

森委員でございます。

金子委員でございます。

山梨委員でございます。

植木委員でございます。

小島委員でございます。

中村委員でございます。

なお、本日常任委員の神谷委員につきましては、事前に御欠席という御連絡をいただいております。

続きまして、事務局職員を紹介いたします。

江戸東京博物館副館長の小林でございます。

事業企画課長の飯塚でございます。

どうぞよろしく願いいたします。

それでは、これから議事に入りたいと思いますが、まずは委員長、副委員長の選任をしたいと思っております。当部会の委員長、副委員長ですが、委員の皆様の互選で定めるということになってございます。

まず、委員長の選任をお願いしたいと思っておりますが、皆様いかがでございましょうか。どなたか御推薦などがございましたら。

**松尾委員**：前回と同様、大口先生をお願いしたいと思っておりますけれども、いかがでございましょうか。

**富岡文化施設担当課長**：大口先生、いかがですか。よろしいでしょうか。

それでは、皆様に御推薦いただきましたので、大口先生に委員長をお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

**富岡文化施設担当課長**：ありがとうございます。

続きまして、副委員長の選任でございますが、こちらはいかがいたしましょうか。

**山梨委員**：小島委員をお願いしたいと思っております。

**富岡文化施設担当課長**：皆様、よろしいですか。

**松尾委員**：賛成です。

**富岡文化施設担当課長**：推薦いただきましたので、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

**富岡文化施設担当課長**：よろしく願いいたします。

それでは、委員長、副委員長には、恐れ入りますけれども、お席を移動していただければと思います。

(大口委員、委員長席へ移動)

(小島委員、副委員長席へ移動)

**大口委員長**：大口でございます。本日の司会をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**富岡文化施設担当課長**：よろしくお願いいたします。

それでは、委員長に進行をお願いします前に、当部会の公開について改めて説明させていただきます。

当部会でございますが、東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱第12の規定によりまして、原則公開となっております。そのため、委員の皆様のお名前と現職名については、東京都のホームページ上に公開をしております。

しかし、議事内容の公開につきましては、資料収集決定前の審議の段階で対象資料の詳細を公開することによりまして、現在の資料所有者の方に不利益を生じさせるおそれがあるということ、また、資料の実物確認につきましては、所有者の方から説明の参考用に借用しているということから、昨年度の資料収集部会と同様に、事務局といたしましては本日の段階では非公開とすることが適切と考えてございます。

このことにつきましては、昨年度の資料収集部会におきましては委員の皆様にお諮りをしまして、冒頭のみ公開で、議事内容は議事録によって公開をすることにしていました。

なお、当部会の議事録の公開につきましては、委員の皆様事前に確認をさせていただいて、その上で公開としたいと思っております。

非公開にいたしますには、要綱第12の第1項(2)及び第2項(2)の規定によりまして、今回についても部会での決定が必要になります。このことにつきまして、委員の皆様でお諮りいただければと思っております。

それでは、委員長、副委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

**大口委員長**：それでは、昨年から行っております資料収集部会の公開の是非について、最初にお諮りしたいと思います。

ただいま事務局から説明がありましたように、今度の議事内容は昨年同様、非公開が適当だという御意見でございました。いかがでしょうか。委員の皆さんから御意見があれば伺います。

事務局の意見に対して特に異議がないようですので、今回の委員会も議事内容は非公開とすることよろしいでしょうか。

(「はい」と声あり)

**大口委員長**：それでは、これからの議事内容については非公開として、後日、議事録を公開させていただくことにしたいと思います。

早速、議事に入りたいと思います。まず、事務局のほうから、今年度の資料の収集方針と、本日審議します収集予定資料の説明をお願いいたします。

**飯塚事業企画課長**：では、説明の前にお手元の資料の確認をお願いいたします。

まず一番上に会議次第が1枚ございます。

資料1、委員名簿が1枚ございます。

資料2、「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」が、A4のホチキスどめで2枚ございます。

資料3、「東京都江戸東京博物館資料収集具体的方針」が1枚ございます。

資料4、「平成29年度東京都江戸東京博物館における収蔵品購入に関する方針について」が1枚ございます。

資料5、「平成29年度第1回資料収蔵委員会（収集部会）説明資料」が、A4のホチキスどめで2枚ございます。

資料6、「平成29年度第1回資料収蔵委員会付議資料」がA3横判で、34までナンバリングしている資料がございます。

なお、お配りしました名簿の肩書などに誤りがございましたらば、恐れ入りますが、後ほど事務局へ御連絡いただければと存じます。

また、お手元の資料につきましては、現時点では未公開の情報が含まれておりますので、会議終了後、回収させていただきたく存じます。よろしくお願いいたします。

それでは、今年度の資料の収集方針を御説明いたします。資料3をごらんください。

本資料にございます「東京都江戸東京博物館資料収集具体的方針」にのっとりまして、当館の展示及び研究に供する資料を収集する方針をとっております。

続きまして、資料4をごらんください。こちらの資料は平成29年度の収蔵品購入に関する方針について記載してございます。今回は、この中でも特に3つの項目に重点を置き、資料の収集を図りました。

第1に、購入方針の2に基づき、江戸東京の歴史と文化の魅力を国内外に発信できる資料でございます。

第2に、方針3（1）に基づきまして、常設展や継続的事業に繰り返し生かすことが可能な資料でございます。

第3に、方針3（2）に基づき、来年度東京府誕生150年を迎えることから、これに関連した東京の都市発展の歴史を示す資料でございます。

続きまして、今回御審議いただく資料について説明いたします。A3サイズ横判の資料6をごらんください。こちらの1枚目にごございますとおり、今回は委員の皆様にご審議いただく案件と報告事項の2件がございます。

審議案件につきましては、購入を予定している資料でございます。この後、詳しく御説明申し上げます。

また、報告事項でございますが、昨年度の平成28年度第2回収蔵委員会におきまして、それまで寄託資料であったものを寄贈資料に変更することを御承認いただきました。それにより、これまで寄託資料として登録されていたデータを除籍することになりますので、後ほどその御報告をいたします。

それでは、資料6を2枚おめくりください。3枚目の紙の右下に1とございますが、こちらが今回の付議資料の総括表でございます。付議資料の総点数は、購入資料が320点ございます。その内訳でございますが、標本資料が217点、映像音響資料が103点でございます。分類別では、標本資料のうち絵画が22点、典籍が14点、文書類が27点、印刷物が154点でございます。映像音響資料は、静止画が103点でございます。

次の2ページと3ページでございますが、こちらに標本資料の入手先別と分類別の点数を一覧表にしてございます。また、やや後ろになりますが、10ページ、11ページには映像音響資料の入手先別と分類別の点数を記しております。

続きまして、主だった資料について個別に御説明いたします。A4縦判の資料5をごらんください。

また、先ほどごらんいただいたA3横判の資料6の4ページ以降に資料リストを記載しております。その表の左端にNo.と書いてある5桁の番号が説明資料の番号と同じ番号になりますので、あわせて御参照いただければと存じます。

では、資料5の説明資料に移りたいと思います。

説明番号No.1は「国書先導船図巻」でございます。これは「国書先導船」と書かれた旗を掲げる豊後臼杵藩稲葉家の川御座船が水上を行く姿を描いた資料です。西国の大名は参勤交代において淀川をさかのぼりましたが、その際に用いた御座船は朝鮮通信使の迎接にも用いられました。

稲葉家は、天和2年（1682）と正徳元年（1711）の朝鮮通信使来日にあたり御座船を出していることから、そのうちのどちらかの迎接の際に制作されたと考えられます。華やかな朝鮮通信使の淀川遡行が描かれたものは少ないため、本資料は大変貴重であり、常設展示「海外との文化交流」のコーナーなどで大いに活用できると考えております。

説明番号No.47の「吉原細見図」とNo.48の「よしはらかの子」でございます。これらは元禄期の新吉原の廓内を描いた案内絵図です。南北を上下にし、中央に中之町、下の中央に大門口を描いています。また、揚屋と茶屋も記載され、遊女の等級や名前が妓楼ごとに記されております。

当館では吉原細見を系統的に収集していますが、本資料は当館で所蔵する貞享年間の「芳原（吉原）細見図」に続く古い時代の資料です。常設展示「芝居と遊里」での展示、及び吉原の研究に役立てることができると考えております。

No.2～12及びNo.45の版画・刷物類でございます。内訳は、錦絵11件と双六1件で、江戸東京の生活風俗や都市景観を描いています。

この中で、歌川国貞による「星の霜当世風俗 水を汲む女」は、水汲みの女性が廁のそばを歩く姿が描かれており、町の便所の様子を知ることができます。このほか、来館者に人気のある町火消の姿を描いた錦絵「江戸の花子供遊び」や、茶を売る店、山本嘉兵衛、今も山本山として続いておりますが、その店先を描いた錦絵、遊びを通して子供に人生を教導く双六、明治の文明開化を象徴する鉄道や乗り合い馬車を描いた錦絵などござい

ます。これらは、常設展や企画展・特集展示などでさまざまな活用が見込まれます。

続きまして、版本類でございますが、説明資料の№13～17でございます。内訳は、版本3件と武鑑2件です。版本は武蔵野の地誌や故事を集めた『武蔵野話』、江戸の盛り場を題材にした狂歌絵本『東都花火千両』です。

また、武鑑は明暦元年（1655）と宝永元年（1704）のものです。当館で所蔵する最も古い武鑑は明暦4年（1658）のもので、これはさらに古いものになります。当館は、武鑑や地誌書を系統的に収集しておりますが、そのコレクションをさらに充実させることができます。常設展の各コーナーで活用したいと考えております。

続きまして、古文書・写本でございます。説明番号№18～31でございます。古文書は、紀州徳川家奥向関係の文書12冊で、最後の紀州藩主である徳川茂承の正室である倫宮に関するものと、2代藩主光貞の80歳の祝賀の記録でございます。特に倫宮に関する資料は、参勤交代制度が緩和されて、正室が国許に赴き、さらにその後、制度が覆され、正室が江戸に戻るときの記録であり、貴重なものでございます。

また、写本は、後の10代将軍徳川家治となる竹千代の宮参りと、老中松平定信が関与した京都御所再建の記録でございます。いずれも常設展示での活用や、マイクロフィルムでの公開など、広く利用することが可能でございます。

最後は、近現代史料でございます。標本の説明番号は№32～44、46及び49～169で、5ページから9ページに記載しております。また、映像の説明番号は№1～103で、12ページから15ページに記載しております。

内容は、明治初期の東京の地図30点と、小田急百貨店の企画宣伝資料237点になります。このうち、「東京大小区分絵図」は明治5年（1872）に施行された大区小区制に基づき発行されたもので、全部で30舗のそろいでございます。また、小田急百貨店企画宣伝資料は、小田急百貨店の役員で広報宣伝部長を務めていた人が持っていた資料で、昭和37年（1962）の創業から昭和50年代までの広報資料で、ファッションショーの企画書などが含まれております。当時の小田急百貨店の広報戦略を知ることができ、これらは常設展や企画展などで活用してまいりたいと考えております。

今回の審議案件に関する資料は以上でございます。

続きまして、報告事項の御説明をいたします。A3サイズ横判の資料6、16ページ以降をごらんいただければと思います。昨年度、第2回の収蔵委員会におきまして、これまで東京空襲を記録する会から寄託されておりました資料を寄贈に切りかえました。それに伴いまして、今回、それらマイクロフィルムや録音テープ547件を寄託資料のリストから除籍いたしますので、ここで御報告いたします。

説明は以上でございます。

**大口委員長：**ありがとうございました。

今、御説明がありました。何か今の説明で質問がありますか。

よろしければ、早速、収集予定資料が展示してある別室のほうに参りたいと思います。

よろしく申し上げます。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

**大口委員長**：委員の先生方、皆さんおそろいだと思しますので、議事を再開させていただきます。

皆様方から、資料をごらんになって、御意見、御質問、あるいは感想でも結構ですけれども、御意見をいただきたいと思えます。恒例と言っではいけませんけれども、例年どおり、そちらの松尾委員のほうから順番でよろしく申し上げます。

**松尾委員**：立派な資料、美しい資料を見せていただき、ありがとうございます。

まず、「国書先導船図巻」というのは大変迫力があって、カラフルで、これは展示に大変よく映える図巻だと思えました。白杵の稲葉家から出たものなのかわからないのですけれども、今、こういう図巻が古書店を通して出てくる、江戸博におさめられるということは、これから江戸博で展示をする上で、オリンピックを前にして国際化の時代にこうした図巻を手に入れたということは大変結構なことだと思えました。

次の「吉原細見図」は、感想になってしまいますけれども、これは元禄のものが2点ということで、非常に細かい様子がよくわかる図で、細見図はこんなに大きかったのかと思って、あまり見たことがないのですけれども、立派な絵図だと思えました。

次の版画・刷物類では、山本山の先祖の茶店の錦絵、これも現代の山本山とか、山本海苔店なども日本橋にはあるかと思えますけれども、そういうものとの対比の上で、やはり展示に向く絵図だな、版画だと思えました。

それから、版本ですけれども、武蔵野の地誌や故事を集めた『武蔵野話』、これも丁寧にみる時間はありませんでしたけれども、石神井あたりが出ていましたが、武蔵野のあたりを調べる上でとてもいい資料ではないかと思えました。

武鑑は、明暦元年と宝永元年の武鑑で、明暦元年のほうは「知行付・役人付」というもので、まだ武鑑の形が整った段階のものではなくて、明暦元年ですから大変古いもので、ただ、知行付とあるのは万石以上が書かれておりまして、後の『大名武鑑』に当たるものだと思いますし、役人付は後の『御役武鑑』に当たるものかなということで、古い武鑑を収集されたものと思えます。

あと、宝永元年の武鑑ですけれども、これも大きな判で、冊子型になっておりまして、珍しいものではないかと思えます。江戸博にはたくさんの武鑑を収蔵されているようなのですが、系統的に集められているということで、今後も収集されると研究にも役に立つと思えます。

古文書・写本類は、紀州徳川家の奥向関係の文書類とか、江戸幕府の奥向にかかわるものであるとか、寛政の御所造営にかかわる資料、いずれも興味深い資料で、文書の場合ですと、あまり展示に向かないとよく言われますけれども、展示に使用されるだけではなく



て、学芸員の研究の資料として、あるいはデジタル化などは館として今後どういうふうになさるのか、主だった資料などを多くの研究者が広く活用できるような形にさせていただくとありがたいと思いました。

このほか、近現代史料はあまりゆっくり見る時間がありませんでしたので、大体このあたりで感想といたしますか、意見と申しますか、以上でございます。

**大口委員長：**ありがとうございました。

どうぞ。

**飯塚事業企画課長：**先ほど御質問のございましたデジタル化でございますが、現在、資料のうち、まずは美術工芸品などからデジタル化を進めておりまして、ウェブ上でも公開しております。

今後は、より多くの資料の公開を目指しまして、システムの改善などを図っていく予定でございます。

**松尾委員：**どうもありがとうございます。

**大口委員長：**次は森委員、お願いします。

**森委員：**今回も全くふだん見ることのできない、初めて見たものばかりで驚いております。資料というのは、震災だったり、空襲だったり、いろいろなことで散逸したと思うのですが、こういう資料がまだ存在して出てくるのだなと思うと、驚きとともに日本の過去の文化の多彩さ、すばらしさを改めて認識いたしました。

今、一つ一つの御感想を松尾委員が述べられましたけれども、そういう調子でお話すると長話になってしまって恐縮なので、一言で言いますと、「国書先導船図巻」は全く圧巻と言うべきで、船をこぐのに1階でこぐ人と2階でこぐ人が組み合わさって船が進んでいくという、ああいう図柄、実際はああだったのでしょうけれども、あれがまた朝鮮通信使の淀川遡行にも使われている。ああいう類いがまだほかにもあるようで、何しろ大きさといい、絵の迫力といい、非常に圧巻だなと思いました。

それから、「吉原細見図」も驚きまして、ともかくあの一枚の大きな図面の中に遊女の等級までが記号で記されている。元禄4年、元禄6年という、近世でもいわゆる元禄文化、吉原なんていうところは想像でしかありませんけれども、ああいうものが刷られて出回って、ああいうのを懐に入れながら、いろいろと見て回ったり、いろいろな体験をしたのかなと思うと、不思議な感じがいたしました。

それから、浮世絵も大変おもしろく見ました。「星の霜当世風俗 水を汲む女」は、水汲みの女性が廁のそばを歩く姿が描かれていたと。あれが廁かどうかというのは、初めて見てよくわかりませんでしたけれども、しかしおもしろい。双六もですね。俳諧とかああいうのは善の道で、長唄とかああいうのは悪の道だと、ああいう分け方も不思議な気がいたしました。

版本類では、武蔵野の地誌や故事を集めた『武蔵野話』は既に活字にもなっているのではないかなと思いました。

そのほか、武鑑ですね。武鑑というと、半横帳みたいなものが多いのですが、これは非常に大判であって大変見やすく、松尾委員も指摘されたように、恐らく武鑑の定型化の前の形ではないかなと思います。明暦年間の非常に古い時代のものです。しかし、大変大きくて、しかも読みやすく、見やすい。武鑑というのは字が細かくて、木板刷りで読みにくいのですが、この武鑑は大変読みやすいというので驚きました。

古文書類では、倫宮に関するものは直筆の古文書であって、大変興味がそそられて、道中記でありまして、こういうのをぜひゆっくり読んだり、解説してみたいという気分になりました。

そのほか近現代史資料では、「東京大小区分絵図」が全部残っている、これもすばらしいことだなと思いました。そのほか、小田急百貨店の資料も珍しいものとして拝見いたしました。

ともかく、収蔵委員会に来るたびに、ほかでは見ることでできない新しい文化財というのでしょうか、そういうものが拝見できて、勉強になってありがたいと思っています。

感想ですけれども、以上です。

**大口委員長：**ありがとうございました。

それでは、金子委員、お願いします。

**金子委員：**今日はあまり専門のものがなかったもので、専ら小田急の資料を中心に見せていただきました。

ちょうどこのころに、65年、67年、70年、71年、神奈川から東京へ引っ越して、新宿は通り道だったので、小田急にはよく行った記憶がうっすらとあるのですが、このころにこんなに世の中が進んでいたとは思わなかったもので、例えば「パブリシティ」なんていう言葉は当たり前のように使われていたり、バレンタインのああいうパンフレットが、しかも英語で「St. Valentine's day」と書いてあったり、こんなころからもう言っていたのだなという驚きといいますか、それから65年の「お歳暮ご贈答品のしおり」には、ロマンチッククリスマスなんて、もう今では恥ずかしくて使えないような言葉が書いてあったり、こんな時代だったのだなと改めて思いました。

もう一つは、63年、「ペーパーコスチュームショー」という報告書があって、記事をいろいろ見てみますと、和紙と銀紙、それから型紙を使っていると書いてあって、和紙だけではないのですね。こんなものがこんな時代にあったのかと。ファッションデザインか何かで、三宅一生が紙のブルゾンとかブーツをつくっていたのが最初かと思っていたら、随分前にもうこんなことをやっていたのですね。和紙だけではないのですが、非常におもしろいなと思いました。これはまとめて系統的に展示ができれば、すごくおもしろいとか、感じるのは私たちの年代ぐらいですかね。

それで、お歳暮のところを1ページめくると、芥川也寸志のきれいな顔が映って、言葉が書いてあるのです。たしか62～63年ではないですか、大河ドラマの「赤穂浪士」で、むちの音のボレロのリズムの主題歌が鳴って、あのころ芥川也寸志が日本の作曲家で注目さ

れた時代なので、日本の国内でしようけれども、だからああいう人が載っているのかなというように、ちょっと「赤穂浪士」と65年の前後関係がよくわかりませんが、調べればわかると思いますが、そういう時代の感じがよく出ていたのではないかなと思いました。

それと、時間がなかったので見たかったのは、「小田急百貨店でレコード針の針供養」という報告書があるのですが、どういうことをやったのか、これもちょっと興味を持った。

とにかくこの小田急の資料というのは非常におもしろい。まとめて系統的な展示で、当時の写真なんかを入れながら使えばおもしろいと思います。

それから、ジャック・エイム、この人は余りよく知りませんが、水着をセパレートにした最初の人なのですか、ビキニまではいっていないけれども、そういう人の物なので、そんなのがあるかなと思ったら、日本ではやはりちょっと早かったのか、そんな資料はあまりなかったので、写真を見ればあるのかもしれませんが、その時代の感じも、前へ進みながらも日本的な感じであまり進まないという、そんなこともあるのかなと思いました。

あとは、とにかく時間がなかったので、もう少し詳しく見られればおもしろいかなと思います。

ほかでは、私はよくわかりませんが、「国書先導船図巻」、お船の絵が正しくはないのでしようけれども、図柄を見ると正しく書いてあるのが意外でした。

それから、『武蔵野話』とか、武鑑とか、今回は少し注目して見せていただきました。

以上です。

**大口委員長：**ありがとうございました。

座席順ということで、私はここで一言感想を申します。

歴史のほうは、先ほどお二人からも詳しい評価をいただきましたので、あまりつけ加えることはありません。最初の「国書先導船図巻」に関しては大変すばらしい絵だと思います。一つ疑問だったのは、通信使節の絵は必ず朝鮮人使節がどこかに描いてあるのが普通なのですが、あの絵を見ると朝鮮人は乗っていないので、何か意味があるのか、ちょっと気になりました。ほかの絵と比べてみて考えたら、何か出てくるかもしれません。

あとは、どれも興味深く拝見しましたが、先ほどもありました版画のお茶屋さんの山本山が出ていましたけれども、あれはたまたま私が前に見ていた江戸時代の農村部の名主の日記の中でも、江戸の知り合いとの贈答品の中に山本山のお茶がたびたび出てくるので、江戸だけでなく周辺の農村部までこういうものが広がっていた有名店ということで拝見しました。

それから、古文書のところで、紀州藩の古文書が出ておりました。幕末の文久から元治にかけて参勤交代制度が緩和されたということで、正室が江戸から国許へ帰り、また戻ってくるということは知っておりましたが、それをこういう古文書で往復の旅日記という形で残っているのは珍しく、そういう資料としても意味があるのかなと思いました。

近現代史料は集め出したら切りがないということになるかもしれませんが、最初の東京の区分地図はやはり貴重なもので、しかも全冊そろっているということなので、これは大変いいコレクションになるかと思いました。

小田急に関しては、昭和37年創業そのころは、私も新宿は通勤の途中の駅だったもので、食堂に寄ったり、展覧会に寄ったりということがありました。今日、出ていたファッション関係はあまり見ていなかったのですけれども、時代の雰囲気としてこの時代の物だなということで、いい物が集まったと思いました。

感想ですけれども、これで終わります。

小島先生、お願いします。

**小島副委員長：**拝見いたしまして、どれも時代像がわかる特徴のある資料で、大変好ましいと思いました。

まず、「国書先導船図巻」は見た目も非常に鮮やかな大判の絵で、展示効果もあるので非常によいものですが、今、委員長もおっしゃいましたように、少しなぜかなと思ったのは、部屋の中が無人で、通信使関係の人物が全く描かれていないというのがなぜかなという気がいたします。あの船だけが描かれたのか、あるいは全体の中の一部なのかというのも少し検討が必要かと思います。やはり作成の目的、何のためにつくられた絵なのかというのは、当然、絵画資料は決定的に重要です、そのあたりのことを、図録も出ておりましたけれども、ほかのいろいろな絵と今後比較して検討する必要があると思いましたし、先ほど公開の話も出ましたけれども、ああいう資料は早く公開して、ほかの資料と突き合わせた研究が進むような形にさせていただけるとよいのかなと思いました。資料としては、もちろん非常によいものだと思います。

「吉原細見図」「よしはらかの子」につきましては、じっくり見ると非常に細かく、遊女言葉などまで書いてあって、本当にこれが実用のためのものだったのだなということがよくわかりますし、折り目がかなりついて、すれた跡があって、使い込んだことが見た目でもわかってきて、本当にあれをたもとに入れて吉原をうろついていた様子が目に浮かぶようで、そういう意味で実物が持っている資料の力を感じました。

版画・刷物類なども、当時の風俗もわかるもので、こういうものも、既にデジタル化が美術工芸品が進められているということでしたけれども、あとの地誌類などにも非常に風俗画としても使えるようないい絵が入っておりますし、歴史資料の分野でも、最近、絵画資料の活用が非常に進んでおりますので、ちょっと総覧的なことを申しますと、収集方針として江戸東京博の展示のためというのが大前提になるのは当然のことだと思いますけれども、前にも何度か申しておりますが、江戸東京博のような大きな公立の博物館に収集していただくと、研究全体のためにも寄与するところが大きいですし、ほかの博物館、資料館でも、こういう資料があったのだということで、それをまた活用することができますので、そういう意味での収集ということも公共のための施設として大きな役割を果たしていると思います。ですので、やはり早期にデジタル化等で公開の方向を進めてほしいなど

改めて思った次第です。

版本類、地誌類は大変よいものがそろいで今度入ったということもございますし、近現代史料のほうでの地図は大変資料価値の高いものですので、こういったものが毎回系統的な収集ということで収集が進んでいるのは非常に好ましいことだと思いますので、ぜひ今後ともこういったコレクションの充実に努めて、かつ公開、活用を進めていただきたいと思います。

古文書・写本についても同様でございますし、紀州藩のものとか、京都御所とか、一見、江戸とは関係がないようなものも、なるほど考えてみると、江戸というものが持っている全国的な意味がもちろんあるわけですので、そういったところでの関係の資料というのも当然収集の対象になるのだなと思って感心した次第です。そういうものについても、あまり狭い意味での江戸東京ということに限らずに、こういった形で、目についたものはぜひ積極的に収集していただくと、いろいろなところでの研究や活用が進むと思いますので、まず、そのような方向で進めていただければと思った次第です。

**大口委員長：**ありがとうございます。

続けて、山梨委員、お願いします。

**山梨委員：**1番の「国書先導船図巻」ですけれども、先ほどらい、各委員から、もちろん非常に見ばえがするいい作品だと思うのですが、ちょっと不思議な点が絵画の形状としてもあると思いました。

絵巻としては半端な丈になっておりますし、あの大きさであれば屏風のようにする大きさかなと思いますので、やはりもっと続いて描かれていたものかとも思われますし、先ほど小島委員からもございましたけれども、どういう目的で描かれたのかということをもっと調査をされて展示をなさるといいのかなと思いました。

オリパラに向けて国際的交流というものを、江戸時代から日本はそうだったということを見せるというのは非常に重要なことかと思ひまして、この朝鮮通信使というものもアジアとの交流を示すものですので、そういった意味でもふさわしいものかなと思います。

2番と3番は、開化に向けての江戸から東京へというところをよく見せるものとして、状態もいいものですし、非常に収集にふさわしいものだと思います。

国芳の作品ですが、10番の「御奥の弾初」ですけれども、これは国芳のユーモアのある作風がとてもよく出たものだと思いますし、一方で12番の「御茶所山本店頭之図」ですが、こちらは絵師としての国芳の画技の高さ、藍色の締まったいい作品で、見ばえもするものだな、よい収集品になるかなと思いました。

16番、17番の『武蔵野話』ですけれども、近代になりますと、風景というのを文学とか、歌所とか、そういうものから切り離して観賞するという風景の見方が出てくるわけですが、まだこの時代においてはやはり文学的な背景と土地というのを結びつけて見ているというのがよくあらわれている資料として、風景、景観の捉え方の歴史の中ですごくおもしろいと感じました。

百貨店のものですが、百貨店というのは明治時代から新しい視覚的なものを発信するという場所であったので、昭和になってからのものですが、明治からつながってくる百貨店の文化史の資料としても興味深いものだと思います。

また、鉄道と百貨店というのが一緒になって文化を発信する、阪神、阪急などもそうですが、そういった一つの資料としても興味深いものだと思います。

46番、47番の地図とか地誌的なものですが、開化時、明治時代、江戸から東京へというのをあらわしているものとして大変興味深く拝見いたしました。

以上です。

**大口委員長**：ありがとうございました。

続けて、植木委員、お願いします。

**植木委員**：今回の資料は第3部会の生活民俗に分類されていないのですが、全てが生活にかかわる資料かなと思って見せていただきました。それぞれが貴重で興味深かったです。

個々の資料ですが、まず江戸初期の地図は大変興味深く拝見いたしました。山梨先生もおっしゃいましたが、江戸から東京へという、そのあたりの様子がよくわかるものかなと思うのですね。旧大名の名前とかが具体的に書かれていたということもあります。そういう意味では、開化錦絵でしょうか、汽車などはもう江戸から東京へというのを物語るものかなと思います。

それから、小田急デパートの広報関係資料は実におもしろく拝見いたしました。昭和30年代から50年代ということで、内容といたしましては商品を紹介するパンフレット類やファッションショー関係のスクラップ、プログラムなどもあったかと思います。それで、商品を紹介しているものとして、贈答品でしょうか、お中元とかお歳暮とか、あとバレンタインとか、全て出ていなくて箱の中にまだたくさん入っているのだらうと思いますが、パンフレットには商品の写真と値段が書かれていますよね。そのあたりもおもしろいのではないかなと思うのです。当時、どのような商品がどのくらいの値段で売られていたかなんていうのも非常に興味深いです。それから、ファッションショー関係の資料は、ファッションの歴史、流行の歴史を見ていく上でも貴重な資料ではないかなと思いました。

以上です。

**大口委員長**：ありがとうございました。

中村委員、お願いします。

**中村委員**：最後なものですから、それと専門外ということもございまして、一点一点については御遠慮させていただきますけれども、これからこの中から学芸員の方たちがどういう資料を読み取って展示とか研究に生かしていただけるか、どれも楽しみになるような資料で、収蔵資料としてはとてもふさわしいと思いました。

1点だけ、皆さんも触れていましたけれども、やはり現代資料というのはこれから博物館では大きい問題だと思うのですが、私も公立の歴史系の博物館の収集委員会なんかに出ますけれども、昭和37年というのは最も新しい年代でして、これが購入資料として

検討されるということは余りなかったものですから、これからこの現代資料を博物館として膨大な中から何を選択して、どうやって集めるかというのは非常に課題だと思うのです。小さい公立の博物館ではなかなかそこに手が出せないわけですがけれども、やはり江戸博でいらっしやいますので、先鞭をつけていただいて、現代資料もちょっと油断をすればすぐに消えていってしまうと思いますので、ぜひお集めいただけるとありがたいと思いました。以上でございます。

**大口委員長：**ありがとうございます。

皆様から御意見を伺いました。皆さんの御意見を聞いて、委員の中から質問なり、あるいは補足意見などがありましたらお願いします。

皆さんの御意見を伺っていて、今日、提案された資料は全て収集に賛成という御意見だと思いますけれども、改めてこれを委員会として承認するかどうか、お伺いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

**大口委員長：**異議なしということで、収集を承認することに決定いたしました。

最後になりますけれども、事務局のほうからの御意向もあって、年明けに予定されている第2回の資料収集部会の公開の是非についてもこの場でお諮りしたいということで、今回と同様に資料収集決定前の審議の段階で対象作品を広く公開することは、資料の借用条件にも抵触するというのもあって、この委員会は冒頭のみ公開で、議事内容は非公開にするということで、年明けの委員会もそういう措置をしたいと思っておりますけれども、異議はございませんか。

(「異議なし」と声あり)

**大口委員長：**では、第2回の来年の議事内容についても非公開とさせていただきます。

これをもちまして審議を終了したいと思うのですが、多少時間があるので、もしも可能であれば、現在、博物館が閉館して作業、工事をしていると思うのですが、一体どういうことを主にされているのか、あるいは展示改変の方向とか、差し支えない範囲で説明いただければと思います。

**飯塚事業企画課長：**それでは、現在の展示の準備状況などについて、簡単ではございますが、御説明させていただきます。

江戸東京博物館は10月から3月までが全館休館でございます。1階につきましては、さらに1年半の休館を予定しております。常設展につきましては、来年4月にオープンいたしますので、これまで以上にお客様に喜んでいただけるように、体験模型とか、展示の方法など、余り目立つような改変ではないのですが、バリアフリーなどを図っていきたくと考えております。

また、平成31年度から再開いたします特別展については、31年度がオリパラの前年、32年度がオリパラの年ということもありますので、館蔵資料なども大いに使った江戸東京の歴史と文化に関する展覧会を、今、自主企画も含めて6本並行して準備を進めているとこ

ろでございます。開催概要などをまだまだこれから詰めていくところではございますけれども、お知らせできる段階になりましたら、この場でも今後お知らせさせていただきたいと思っております。

昨年度などは、休館中ではありませんでしたので、展覧会のお知らせをさせていただいたのですが、残念ながら現在は展覧会をやっていないということもございまして、そのかわりと言っては何なのですかけれども、江戸東京博物館の浮世絵を中心としたコレクション集を都市歴史研究室が中心になり制作いたしました。これまで先生方にも収集に当たって御意見いただきましたものも含まれているかと存じます。江戸時代の錦絵とか、明治の近代版画、そういったものを含めたコレクション集でございます。お荷物になるかと思っておりますので、改めて先生方にお送りさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

簡単ですが、こういった説明でよろしいでしょうか。

**大口委員長：**ありがとうございました。

休館中のこれからの改装について説明がありましたけれども、まだ進行中だということで、委員の皆さんからも何か御意見があれば、注文なり、御意見をできればこの機会に御発言いただければと思います。

**森委員：**配られた資料6の報告事項というところに、寄託資料の除籍という大変膨大な除籍資料報告リストが載っております。これは特に映像関係がずっとありますよね。除籍理由というのはその他と書いてあるから何だかわからないのですけれども、除籍というのは持っていた資料を全部処分するのか。どういうことなのでしょう。

**飯塚事業企画課長：**実はこちらの資料は、今まで寄託といたしまして、所蔵者の方からお預かりしていたものだったのです。こちらを昨年度の収蔵委員会におきまして、預かっていたものを寄贈資料、つまり江戸博の収蔵品という形に扱いを変更いたしました。それに伴いまして寄贈資料として登録しましたので、わかりづらくて恐縮ですが、寄託資料としては籍を抜いたという意味でございます。ですので、資料としては所蔵しているということには変わりはないのですけれども、これまで預かっていたものを正式に江戸博の資料として、寄贈資料として変更したことに伴いまして、今回、寄託資料のリストからは除いたということでございます。

**森委員：**寄託資料を寄託ではなくて、正式に館の資料にしたということですか。

**飯塚事業企画課長：**そうでございます。

**大口委員長：**よろしいでしょうか。

では、これもちまして、本日の審議を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

**富岡文化施設担当課長：**大口委員長、小島副委員長、どうもありがとうございました。

本日の資料収集部会の議事録でございますが、今日、冒頭にも御説明いたしましたけれども、資料収集の決定後に議事録の公開を予定してございますので、どうぞよろしくお願い



いたします。

なお、第2回の資料収蔵委員会でございますが、事務局といたしましては、年を明けまして来年の1月25日の木曜日、午前10時からの開催を提案させていただきたいと思っております。皆様がよろしければこの日程で決めさせていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

それでは、次回は1月25日の午前10時からということで、場所は同じくこちらの会議室でございます。正式な通知などは後日発送させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

これもちまして、平成29年度第1回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会 資料収集部会を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

午前11時48分閉会

以上